



# 山口大学

工学部：感性デザイン工学科

DATA

〒755-8611

山口県宇部市常盤台2-16-1

0836-85-9005

www.eng.yamaguchi-u.ac.jp

## 想像し、創造する力と広い視野 豊かな人材を育成し羽ばたかせる

「発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場」を基本理念とする山口大学は、常に新しい教育システムを探索し、学生や研究者の国際交流に力を入れて教育改善に取り組んでいる。



前身は1815年、長州藩士によって開かれた私塾「山口講堂」。古くから次代の人材育成に力を入れてきた土地柄なのだ。その熱意は今に伝えられ、恵まれた環境、実験施設の



### Pick Up the 自慢の環境

県政の中心、山口市にも海峡の都、下関にもほど近く、趣香る萩・津和野にもアクセスしやすい、自然と文化に囲まれた宇部市のキャンパス。集合写真の舞台は中国先生が設計した学食で、新しい学食(右下)が新設した今も人気を集める。県内唯一の工学専門図書館として地域に開かれた図書館には、約15万冊の蔵書が。左下の中国研究室では、卒業生お手製の木製デスクに向かい、和気あいあいと学ぶ学生たちの姿が印象的だった。

もと、基礎から世界最先端の研究まで幅広く網羅し、産学公連携にも注力。特許の取得はもちろん、それを経済的に活用するところまで多角的、実践的に推し進める。





その中で、世界レベルのスタッフが学生ひとりひとりの学ぶ意欲と夢の実現を後押しする工学部。工学を生活の基盤を築き、形づくり、豊かにするすべてが詰まった宝箱と位置づけ、それらをデザインし、つくり、動かす人材育成を目指している。

建築を学ぶ学科を「感性デザイン工学科」と銘打ち、総合学学科的な特徴をもたせているのもユニークだ。人間の感性の多様性や多面性を理解し、地域から地球規模まで結びつく環境や社会ニーズを踏まえ、安全で快適で美しい生活空間の創造につながる技術やデザイン能力を有する。そんな想像力豊かな真のジェネラリスト育成が目標という。

「大工になりたくて建築を目指した」中園真人教授の専門は建築計画学。少子高齢化や過疎化などの社会構造の変化に対応するため、地域に密着したさまざまな提案と実践に取り組んでいる。「住宅の発展過程など、文化人類学的なマニアックな側面も含まれるのが魅力のひとつ」という研究生の声も。大学の研究では稀少な木造建築を多く扱うのも特徴だ。



信じることを突き詰め形にする  
それほど楽しいことはない

工学部感性デザイン工学科教授  
中園真人先生



覚悟以上に難しい世界だから  
期待以上のやりがいを感じます

工学部感性デザイン工学科4年生  
平蔡大雅さん

「設計は楽しい。けれどそれは様々な課題を含み、それを乗り越えていくことの楽しさです。そして設計はそれだけでは形にならない。私のゼミでは、古民家再生プロジェクトなどで、可能な場合は施工まで学生に参加さ

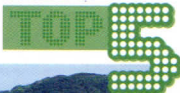
せませす。地域の人たちと一緒につくりあげるところまで」。古民家再生の場合、実際はつくる以前に地域を盛り上げる段階からスタートすることも。さらに、つくりっぱなしではなく、使われ方の調査や、

つくった建物を活用したイベントなどにも積極的に関わっていく。それは基礎的な総合知識や建築技術だけにとどまらない、まさに感性や人間力にまで踏み込んだ実践的教育であり、すべてが貴重な経験だ。4年生の平蔡大雅さんは京都出身。「町家や伝統民家などが身近にあったためか、木造の建物に惹かれて」中園先生の研究室へ。大学での学びにより、建築への興味は広がり続けているという。たとえば、木造と対極にあるかのような安藤忠雄建築。「コンクリート打ちっぱなしで、いろいろな可能性を追求する姿勢、そのデザインや機能性なども面白く、素晴らしいものだと思います」。現在、大学院への進学試験の勉強と卒論の両方に追われているが、将来は「やはり木造の建築に携わりたいですね。うまく建物の形が決まったり、中身のプランがはまったときの達成感ですごい。それが見えるまでがキツイからこそ(笑)、いけると思えたときの充実感が大きい。そんな手応えを、自分が好きな木造建築で突き詰めていきたいです」。





周辺のみどころ



1 通行料無料の離島架橋としては日本2位の長さ(2000年開通時には日本一)の角島大橋は、車のCMなどの撮影ポイントとしても人気。1886年、日本初の石造り灯台として点灯した角島灯台は今も現役で海の安全を守り続けている。



2 「ビッグウェーブやまぐち」の異名をもつ磯崎新の山口情報芸術センターは2003年竣工し、公共建築賞を受賞。



3 室町中期における最も優れた建造物といわれ、日本一美しい五重の塔との誉れ高い国宝・瑠璃光寺五重塔。



4 日本に初めてキリスト教を伝えたザビエルの最初の布教所は意外にもこの地だった「山口ザビエル記念聖堂」。



5 5連木造アーチ橋、錦帯橋は日本三名橋のひとつ。組木の技法を活用した精巧で頑丈かつ美しい造りが特徴。

地域に残された宝を活かす  
地方大学の使命を担って



「地方には宝のような伝統建築がまだ多く残っています」。古民家再生は、中園研究室の大きなテーマのひとつ。再生にあたって重要な耐震補強用パネルを開発し特許も取得している。継承者がいなくなったり、老朽化したりして失われようとしている宝を

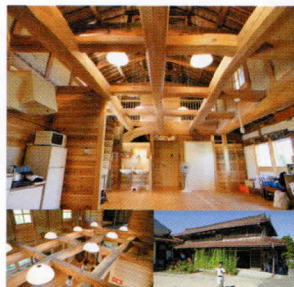
いかに残し、さらには活用していくか。「歌野清流庵」は築100年超の大黒柱を中心とした典型的な農家住宅。地元有志と大学による「歌野の自然とふれあう会」を結成して再生に取り組んだ。完全予約制の蕎麦屋に生まれ変わるとともに、田畑でイネを育て、収穫した餅米で餅つきしたり、コンサートを開催したり。地域の活性化に貢献できる拠り所にするための活動は今も続く。農家の納屋を児童クラブへと再生させた「中村さん家 つばめの家」では、見事な梁に守られた清々しい空間で子どもたちが走り回る。使われ

方調査に訪れ、子どもと遊ぶ研究室の学生は、まるで保母さんのよう。建設中の木造建物は「貴和の里にっどう会」の古民家民宿に併設される中園先生設計の五右衛門風呂だ。地域に根ざし、恒久的、普遍的価値をもつものを生み出して発信していく。そこには学びや研究と実践の境のない、自らのもてる智と力と行動のすべてを駆使して社会に貢献していくための場がある。

よる「歌野の自然とふれあう会」を結成して再生に取り組んだ。完全予約制の蕎麦屋に生まれ変わるとともに、田畑でイネを育て、収穫した餅米で餅つきしたり、コンサートを開催したり。地域の活性化に貢献できる拠り所にするための活動は今も続く。農家の納屋を児童クラブへと再生させた「中村さん家 つばめの家」では、見事な梁に守られた清々しい空間で子どもたちが走り回る。使われ



清流と山々に囲まれ、昔懐かしい伝統的な茅葺き屋根の歌野清流庵。



学生たちが試行錯誤して施工したつばめの家は子どもたちの居場所に。



五右衛門風呂の完成を待つ貴和の里では囲炉裏を囲んでの集いも。



おいだませ「合格」へ  
長州魂見せるっちゃ!

明治維新で活躍した高杉晋作、伊藤博文のふるさと山口県。彼らが学んだ松下村塾の塾長・吉田松陰は塾生に「教えるの語源は“愛しむ”。誰にも得手不得手が有り、絶対に人を見捨てるような事をしてはならない」と教えていたと…。日建学院の基本理念と“愛しむ”思いとを胸に、職員一同、皆様に合格に導いてまいります。



この地域の資格取得をサポートする

日建学院 山口校スタッフ

